



5号 令和4年6月7日

<学校教育目標>

ともに伸びる

# 校長だより(職員編)

呉市立市阿賀小学校  
安宗 誠

## 校長による 国語「自然のかくし絵」の授業

本日、私が急遽ではありますが、国語の授業（第3学年 説明文教材「自然のかくし絵」）をしました。本文のいちばん最後の段落の読み取りを行いました。主な展開は次のとおりです。

### 1 教材文をすらすら読めるようにするために。

全文通読①（2分30秒～3分30秒の間で収まるように。速すぎず、遅すぎず！）

全文音読②（1分30秒～2分30秒の間で収まるように。速く読むことを意識して！）

### 2 「かくし絵」を捉えさせる。

T「ところで、『かくし絵』って何？」

T「タブレットで調べてみよう！」（5分間）

T「私が調べてみたかくし絵はこれだよ。」「かくし絵って、絵の中に他の絵がかくれている絵のことだよね。」

### 3 めあてを捉えさせる。

T「このような『かくし絵』と『自然のかくし絵』はどうちがうのかな？このちがいで何だろう？」

### 4 最後の段落に目を向けさせ、その内容を頭に入れさせる。

T「『自然のかくし絵』という言葉は、本文の中でたった1回しか出てこないんだよ。見つけて赤で線を引こう！」

T「その段落を音読しよう！ ただし、20秒以内で。」「今度はその段落を5回くり返して音読しよう！ ただし、1分30秒以内で！」

「今度はその段落を暗唱しよう！教科書は裏返しにしておこう！途中、1回はちらっと見てもよいことにします。」

### 5 「自然のかくし絵」を捉えさせる。

T「ここを読んでみると、『自然のかくし絵』は、ただの『かくし絵』とはちがって・・・？」

C「できにかこまれながらこん虫が生きつつけるのに、ずいぶん役に立っている。」

T「それって、分かりやすく言い換えるとどういうこと？44ページの中から30文字以内で抜き出しましょう。」

（じっとしているかぎり、ほご色は、身をかくすのに役立ちます。・・・28文字）

### 6 本時のまとめをさせる。

T「今日の『まとめ』は、今28文字で抜き出したことがすなわち『まとめ』になりますね！」

### 7 「発展的振り返り」をさせる。

T「ところで、題名に『自然のかくし絵』を使わないとしたら、どんな題名になっていたでしょうか？」

C「・・・？」

T「答えは最後の段落に3文字で書いてあります。」

C「ほご色！」「『ほご色は、自然のかくし絵だということができるでしょう。』と書いてあるからです。」

T「そのとおりです。しかし、『かくし絵』という『たとえ』を使って題名にしたところに筆者の工夫があるのでしょうか。」

T「このような『たとえ』を使った題名を他に思い出しませんか？」

T「これを見てください（2年のときに使った教科書の『ビーバーの大工事』のページを見せる。）。人でもないのに『大工事』とはね。

これも『たとえ』の1種ですね。おもしろいね。」「さあ、『発展的振り返り』を書きましょう。」

「発展的振り返り」例も板書する

「かくし絵」を捉えさせる

本時のめあては「かくし絵」を捉えさせた後で！

問いの解決に向けた問いとその答えがすなわち「まとめ」になることだってある！